

土浦スポーツ健康倶楽部が行う地域活動によるソーシャル・キャピタルの醸成に関する研究

早稲田大学創造理工学研究科 学生会員 米津 荘彦
早稲田大学理工学術院教授 正会員 中川 義英

1. 背景・目的

2000年に文部科学省が定めたスポーツ振興基本計画では、地域におけるスポーツ環境の整備を掲げている。そこでは、全国の各市区町村において、少なくとも1つのスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ、以下総合型クラブとする)を育成し、住民主体の運営がなされることを目標としている¹⁾。

このような新たな市民活動による地域社会のネットワークの広がり、ソーシャル・キャピタル(第3章を参照、以下SCとする)の変容をもたらすことから²⁾、本計画制定から10余年が経過した今、総合型クラブ設立の効果をSCの観点から明らかにする調査研究が進められている³⁾⁻⁵⁾。その中でも、内閣府調査では、スポーツ・趣味・娯楽活動は、希薄な地域との関わりが課題として見受けられる⁶⁾。

そこで本研究では、スポーツ・趣味・娯楽活動のうちスポーツ活動とりわけ地域活動(クラブ会員が地域との関わりが持てる活動)を行う総合型クラブを対象として、アンケート調査票を用いて会員のSC指数を明らかにする。そこで、地域活動への参加者と非参加者を比較して、SCの醸成状況に違いが見られるか検証する。

以上について、土浦スポーツ健康倶楽部を事例にケーススタディし、地域活動の有用性を明らかにすることを本研究の目的とする。

2. 会員のSC指数の算出

2.1 調査の概要

SC指数の算出を目的としてアンケート調査票による調査を行った。調査対象は、土浦スポーツ健康倶楽部の会員である。アンケートの調査期間は、2013年11月21日から2013年12月17日である。

SC指数算出に関わる質問項目を表1に、アンケート調査票の内容を図1に示す。

表1 SC指数の算出に係わる質問内容

大項目	小項目
つきあい・交流 (ネットワーク)	(a)地域住民とのつきあい (b)交友範囲
信頼 (社会的信頼)	(c)地域住民への期待・信頼 (d)住んでいる土地への愛着・信頼
社会参加 (互酬性の規範)	(e)地縁的活動への参加

■つきあい・交流

(a) 所属クラブでの活動を通じて、
あなたの地域住民とのつきあいは変化しましたか？

1. かなり減った 2. 減った 3. 変わらない 4. 増えた 5. かなり増えた

(b) 所属クラブでの活動を通じて、あなたの交友範囲は変化しましたか？

1. かなり減った 2. 減った 3. 変わらない 4. 広がった 5. かなり広がった

■信頼

(c) 所属クラブでの活動を通じて、
あなたの地域住民への期待・信頼は変化しましたか？

1. かなり減った 2. 減った 3. 変わらない 4. 増えた 5. かなり増えた

(d) 所属クラブでの活動を通じて、
あなたの住んでいる土地への愛着・信頼は変化しましたか？

1. かなり減った 2. 減った 3. 変わらない 4. 増えた 5. かなり増えた

■社会参加

(e) 所属クラブでの活動を通じて、
あなたの地縁的活動(自治会等)への参加は変化しましたか？

1. かなり減った 2. 減った 3. 変わらない 4. 増えた 5. かなり増えた

■その他

(f) あなたは歩数マイレージに参加したことがありますか？

1. はい 2. いいえ

(「1. はい」と答えた方へ)

(g) 歩数マイレージに参加された回数をご教示ください。 _____ 回

図1 アンケート調査票の内容

2.2 SC指数の算出方法

宮宗³⁾は、SC指数について5段階リッカート尺度を用いて、表1の大項目(「つきあい・交流」「信頼」「社会参加」)に関連する小項目の合計得点として、本研究ではSC指数を式(2.1)のように表す。

$$\text{SC 指数} = (a) + (b) + (c) + (d) + (e) \quad (2.1)$$

2.3 単純集計結果

アンケート調査票の回収率は63.7%である(配布部数:218、回収部数:139)。うち2部は無効回答であったため、有効サンプルは137である。

参加回数別に見た有効サンプルの内訳ならびに参加回数ごとのSC指数(平均点)を表2に示す。

表2 参加回数別に見た有効サンプルの内訳(n=137)

参加回数(回)	0	1	2	3	4	5	6	7
有効サンプル(人)	65	28	14	11	7	7	3	2
SC指数(平均点)	19.7	18.3	19.2	20.9	18.4	20.9	17.7	20.5

n=137

表2より、有効サンプルのうち歩数マイレージ参加者は72人、非参加者は65人である。参加回数別に見ると、0回が最も多く、参加回数が増えるにつれて参加人数は少なくなっている。

次に、歩数マイレージへの参加回数とSC指数との関係を、散布図として図2に示す。

Keyword: 総合型地域スポーツクラブ、地域活動、ソーシャル・キャピタル

連絡先: 〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1 51-15-11 TEL:03-5286-3398 FAX:03-5272-9975

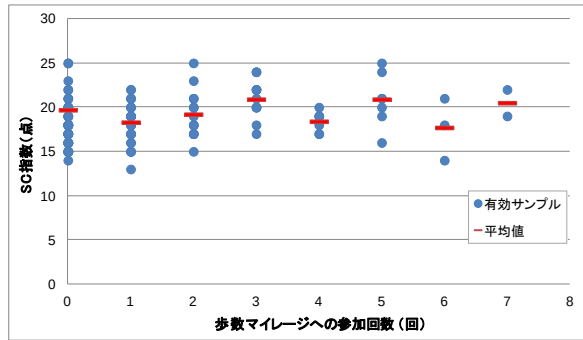


図 2 参加回数と SC 指数との関係

図 2 より、歩数マイレージへの参加回数と SC 指数との間に相関が見られないため、以後歩数マイレージへの参加回数は指標として考慮せず、参加の有無にとどめる。

3. SC 指数と地域活動の関係

3.1 SC 指数の比較

式(2.1)から算出した SC 指数と 5 小項目の得点(平均点)を、歩数マイレージ参加者と非参加者について、表 3 と表 4 にそれぞれ示す。なお、標本誤差は信頼度 95%により算出した。標本誤差、下限値、上限値は以下の式(3.1)-式(3.3)によって表される。

表3 SC指数の算出結果(歩数マイレージ参加者)

	つきあい・交流 (a)	信頼 (b)	社会参加 (c)	SC指数 (d)
平均	3.81	4.33	3.60	19.15
標準偏差	0.82	0.61	0.75	2.55
標本誤差	0.19	0.14	0.15	0.59
下限値	3.62	4.19	3.44	18.56
上限値	3.99	4.47	3.75	19.74

(a) 地域住民とのつきあい
(b) 交友範囲
(c) 地域住民への期待・信頼
(d) 住んでいる土地への愛着・信頼
(e) 地縁的活動への参加

表4 SC指数の算出結果(歩数マイレージ非参加者)

	つきあい・交流 (a)	信頼 (b)	社会参加 (c)	SC指数 (d)
平均	3.63	3.88	3.48	17.88
標準偏差	0.67	0.65	0.58	2.42
標本誤差	0.16	0.16	0.15	0.59
下限値	3.47	3.72	3.33	17.29
上限値	3.79	4.03	3.63	18.47

(a) 地域住民とのつきあい
(b) 交友範囲
(c) 地域住民への期待・信頼
(d) 住んでいる土地への愛着・信頼
(e) 地縁的活動への参加

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \frac{\text{標準偏差}}{\sqrt{\text{サンプル数}}} \quad (3.1)$$

$$\text{下限値} = \text{平均値} - \text{標本誤差} \quad (3.2)$$

$$\text{上限値} = \text{平均値} + \text{標本誤差} \quad (3.3)$$

ある 2 つの母集団の平均値を比較する際に、両者の信頼区間(下限値-上限値)が重ならない場合は有意な差が「ある」と言え、重なる場合は有意な差が「ない」と言える。

表 3、表 4 から、信頼度 95%による歩数マイレージ参加者と非参加者の「SC 指数」の信頼区間は、参加者が 18.56-19.74、非参加者が 17.29-18.47 となることから、両者の「SC 指数」に有意な差が「ある」と言える。

3.2 小項目ごとの比較

歩数マイレージ参加者と非参加者との間に有意な差をもたらした要因を明らかにするため、細分化して 5 小項目について信頼度 95%による平均値の比較を行う。5 小項目に関する信頼区間の比較を表 5 に示す。

表 5 5 小項目に関する信頼区間の比較

小項目	信頼区間		有意差の有無
	非参加者	参加者	
(a)地域住民とのつきあい	3.47-3.79	3.62-3.99	なし
(b)交友範囲	3.72-4.03	4.19-4.47	あり
(c)地域住民への期待・信頼	3.33-3.63	3.44-3.75	なし
(d)住んでいる土地への愛着・信頼	3.44-3.73	3.88-4.23	あり
(e)地縁的活動への参加	3.15-3.57	3.17-3.44	なし

以上より、「交友範囲の変化」と「住んでいる土地への愛着・信頼の変化」が SC 指数に有意な差をもたらした要因と言える。

4. 本研究で得られた知見

本研究で、土浦スポーツ健康倶楽部が行う地域活動「歩数マイレージ」は、SC の醸成に寄与することが分かった。

しかし、SC を細分化すると、「地域住民とのつきあい」「地域住民への期待・信頼」「地縁的活動への参加」において、歩数マイレージの効果が見られなかったことから、これら 3 点に効果が現れるようなコンテンツづくりが今後必要である。

<参考文献>

- 1) 文部科学省 総合型地域スポーツクラブ育成マニュアル http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/main3_a7.htm (2013/5/15)
- 2) 長瀬仁・榎本信・松田陽一 スポーツ振興とソーシャル・キャピタルの相互補完的關係 徳島大学総合科学部人間科学研究 第 14 巻 pp.9-24 2006 年
- 3) 宮宗大輔 総合型地域スポーツクラブにおけるソーシャル・キャピタルに関する研究 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士論文 2008 年
- 4) 稲葉慎太郎・山口泰雄・伊藤克広 総合型地域スポーツクラブのソーシャル・キャピタルと社会公益性に関する実証的研究 SSF スポーツ政策研究 第 1 巻 1 号 pp.72-81 2011 年
- 5) 藤田雅文・吉田幸人 総合型地域スポーツクラブの効果に関する研究 鳴門教育大学研究紀要 第 27 巻 pp.405-414 2012 年
- 6) 内閣府 市民活動とソーシャル・キャピタルの定量的把握 https://www.npo-homepage.go.jp/data/report9_1.html (2013/9/10)